

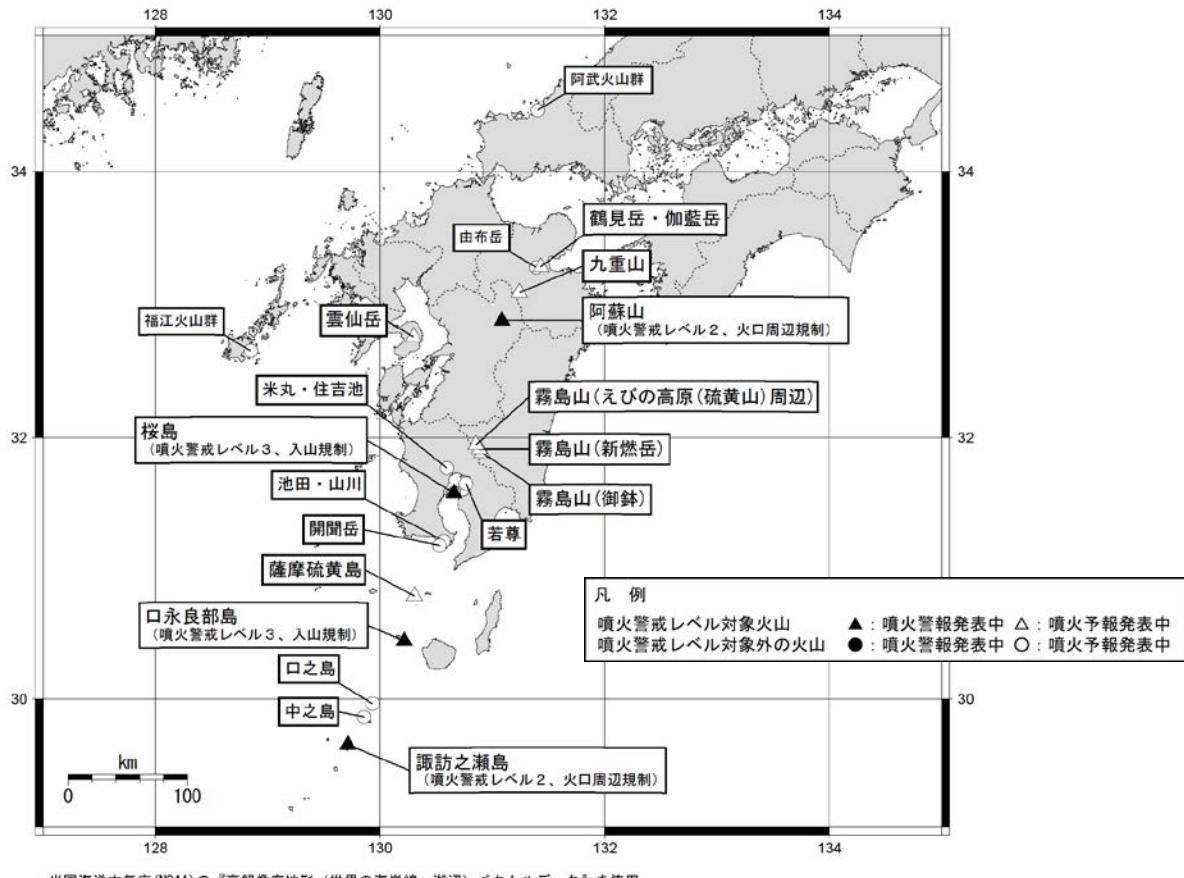
○九州地方の火山活動

管内月間火山概況（平成31年4月）

福岡管区気象台
地域火山監視・警報センター

噴火警報及び噴火予報の発表状況（5月5日現在）

| 警報・予報 | 噴火警戒レベル 及びキーワード | 該当火山 |
|--------|--------------------|--|
| 火口周辺警報 | レベル3（入山規制） | 桜島、口永良部島 |
| | レベル2（火口周辺規制） | 諫訪之瀬島、阿蘇山 |
| 噴火予報 | レベル1（活火山であることに留意） | 鶴見岳・伽藍岳、九重山、雲仙岳、霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺）、霧島山（新燃岳）、霧島山（御鉢）、薩摩硫黃島 |
| | 活火山であることに留意 | 阿武火山群、由布岳、福江火山群、霧島山、米丸・住吉池、若尊、池田・山川、開聞岳、口之島、中之島 |



米国海洋大気庁(NOAA)の『高解像度地形（世界の海岸線、湖沼）ベクトルデータ』を使用

噴火警戒レベルは、地域防災計画等でその活用が定められている火山で運用されています。

この管内月間火山概況は福岡管区気象台ホームページ (<https://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>) や気象庁ホームページ (https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php) でも閲覧することができます。

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokujii.html>

この資料は気象庁のほか、九州地方整備局、国土地理院、東京大学、京都大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、国立研究開発法人産業技術総合研究所、大分県、長崎県、宮崎県、鹿児島県、屋久島町、三島村、十島村及び阿蘇火山博物館のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号：平29情使、第798号）。

各火山の活動状況及び予報警報事項（4月1日～5月5日）

主な火山の活動及び予報警報事項の状況は以下のとおりです。

霧島山（新燃岳）では、5日に噴火予報を発表し噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から1（活火山であることに留意）へ引き下げました。

阿蘇山では、14日に火口周辺警報を発表し噴火警戒レベルを1（活火山であることに留意）から2（火口周辺規制）へ引き上げました。

霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺）では、18日に噴火予報を発表し噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から1（活火山であることに留意）へ引き下げました。

鶴見岳・伽藍岳 [噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）]

火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候は認められません。

九重山 [噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）]

火山性地震は少ない状態で経過しました。2014年以降、硫黄山付近の噴気孔群地下の温度上昇を示唆する全磁力の変化がみられており、2017年6月頃からはB型地震¹⁾が時折発生しています。これらのことから、わずかに火山活動が高まっている可能性があります。今後の火山活動に留意してください。

阿蘇山 [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）] ←14日に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを1（活火山であることに留意）から2（火口周辺規制）へ引き上げ

阿蘇山では、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量が概ね多い状態で経過しているなか、14日未明から火山性微動の振幅が大きくなつたことから、14日14時30分に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを1（活火山であることに留意）から2（火口周辺規制）へ引き上げました。

16日18時28分に中岳第一火口でごく小規模な噴火が発生し、19日にもごく小規模な噴火が3回発生しました。5月3日（期間外）にも噴火が発生し、噴煙は火口縁上2,000mまで上がりました。

火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、4月下旬以降、非常に多い状態で経過しています。また、GNSS連続観測では、深部にマグマだまりがあると考えられている草千里を挟む基線で、わずかな伸びの傾向が認められます。

このように火山活動が高まっていますので、中岳第一火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火碎流に警戒してください。

風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。また、火山ガスに注意してください。

地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

雲仙岳 [噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）]

火山活動に特段の変化はありませんが、2010年頃から普賢岳から平成新山直下の深さ1～2kmを震源とする火山性地震が時々発生していますので、今後の火山活動に留意してください。

霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺） [噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）] ←18日に噴火予報を発表し、噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から1（活火山であることに留意）へ引き下げ

硫黄山付近の火山性地震は2019年2月以降概ね少ない状態で経過しています。また、GNSS連続観測では、硫黄山近傍の基線で伸びの傾向が続いていましたが、2019年2月頃からは停滞しています。噴気活動は活発な状態が続いていますが、2019年1月以降はその規模のさらなる拡大は認められません。

これらのことから、えびの高原の硫黄山から概ね1kmの範囲に大きな噴石が飛散する可能性は低くなったものと判断し、18日11時00分に噴火予報を発表し、噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から1（活火山であることに留意）へ引き下げました。その後も、火山性地震の発生状況や噴気活動の状況に特段の変化はありません。

現在活発な噴気活動がみられている硫黄山の西側500mの噴気地帯から概ね100mの範囲、及び硫黄山火口内では、熱水・熱泥等が飛散する可能性がありますので注意してください。また、火山ガスにも注意が必要です。地元自治体等が行う立ち入り規制に従うとともに、火口周辺や噴気孔の近くには留まらないでください。

霧島山（新燃岳） [噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）] ←5日に噴火予報を発表し、噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から1（活火山であることに留意）へ引下げ

新燃岳では、火口直下を震源とする火山性地震が2019年2月25日から28日にかけて増加しましたが、3月以降は概ね少ない状態で経過しました。また、噴煙の状況や傾斜計等の観測データに特段の変化はみられませんでした。これらのことから新燃岳では、5日11時00分に噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から1（活火山であることに留意）に引き下げる噴火予報を発表しました。

活火山であることから、火口内及び西側斜面の割れ目付近では、火山灰の噴出や火山ガス等に注意してください。

なお、これまでの噴火により登山道等が危険な状態となっている可能性があるため、引き続き地元自治体等が行う立入規制等に留意してください。

霧島山（御鉢） [噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）]

火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候は認められません。

桜島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）]

南岳山頂火口では、引き続き噴火（爆発を含む）が発生しています。7日23時50分の爆発では、噴煙は火口縁上1,300mまで上がり、弾道を描いて飛散する大きな噴石は4合目（南岳山頂火口より1,300mから1,700m）まで達しました。13日11時20分の爆発では、噴煙は火口縁上2,200mまで上がり、弾道を描いて飛散する大きな噴石は8合目（南岳山頂火口より500mから700m）まで達しました。

桜島では、今後も南岳山頂火口を中心に、噴火活動が継続すると考えられます。

南岳山頂火口及び昭和火口から概ね2kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火碎流に警戒してください。

風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るため注意してください。爆発に伴う大きな空振によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意してください。なお、今後の降灰状況次第では、降雨時に土石流が発生する可能性がありますので留意してください。

薩摩硫黄島 [噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）]

火山性地震は少ない状態でした。火山性微動は観測されていません。

火山活動に特段の変化はありませんが、硫黄岳山頂火口では噴煙活動が続いているので、火山灰等が噴出する可能性があります。火口付近では火山ガスに注意してください。なお、地元自治体が実施している立入規制等に留意してください。

口永良部島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）]

口永良部島では、2月3日以降、噴火は観測されていません。

口永良部島では、2018年12月以降やや規模の大きな噴火を繰り返しており、今後も火碎流を伴う噴火が発生する可能性があります。

新岳火口から概ね2kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火碎流に警戒してください。また、向江浜地区から新岳の南西にかけての火口から海岸までの範囲では、火碎流に警戒してください。

風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

諫訪之瀬島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

御岳火口では、噴火は観測されませんでした。

諫訪之瀬島では、長期にわたり噴火を繰り返していることから、今後も火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

上記以外の火山の活動状況に変化はなく、予報事項に変更はありません。

- 1) 火山性地震のうち、P波、S波の相が不明瞭で、比較的周期が長く、火口周辺の比較的浅い場所で発生する地震と考えられています。火道内の火山ガスの移動やマグマの発泡など火山性流体の動きで発生すると考えられています。B型地震の増加は、山体浅部の火山活動の活発化を意味していることから発生状況には注意が必要です。